

座長の言葉

加藤 隆康（株式会社グッドライフデザイン 代表取締役社長）

東日本大震災から1年2ヶ月が経過した。被災された多くの方々が依然として不自由な生活をされており、心身両面の健康問題が心配される。一日も早く健康的で安心して生活できる環境が整うよう祈念するものである。産業衛生技術者の立場から考えると大きな課題が2つある。1つは瓦礫処理であり火災や腐敗による悪臭、石綿が飛散しているかどうかも重要であろう。もう1つは東京電力福島原子力発電所の事故による放射性物質の汚染である。我が国においてこのように大規模な放射性物質による環境汚染の経験は無く、除染作業者の長期間にわたる被曝対策、特に被曝の低減や線量管理等は技術部会会員に対する新たな課題でもある。

また、我が国産業におけるグローバル化は非常に速く進行しており、新たな化学物質を含め、化学物質の取り扱いに対する安全衛生管理も国際的な管理の考え方に合わせていく必要がある。法改正も進められており今後産業現場において重要な産業衛生上の課題でもある。これらのように産業衛生の課題は時代とともに大きく変化し、また、拡大しつつある。産業保健スタッフの一員として、産業衛生技術者も連携してこれらの問題を解決すべき役割を担っている。

このような状況を踏まえ、今回のフォーラムでは3名の専門家の先生方から最近の産業衛生上の課題についてご講演いただき、今後の産業衛生技術者の役割について考えてみたい。